

渡橋の安全を祈願して、石像の観音様を北側の土堤に安置して、橋の名を観音橋と名付けたと伝えられる。たびたびの大水で、観音像はいつの世にか流されて、今はないが、多分、川下に埋没していることだろう。台石だけが草に埋もれて、昔の面影を残している。大正の末頃から、現在のような大きな橋となった。

(話者 石井 栄)

## 小中南の三清水

《小 中》

この村も、昔からたびたびの旱魃に見舞われた。あちこちの稲が枯れ、各家の井戸水も枯れて飲水にも困った。そんなとき、少しも減らずに湧き出て村人の渴を救った清水がある。弁天の清水、滝山の清水、三升蒔の清水がそれである。

弁天の清水は立石神社の西の山、俗に愛宕山の南麓から出ている清水で、弁天様を祀った祠があるの  
で、その名がある。この清水はまた、愛宕山の北裏

小中滝山の清水



観音橋

